

## 平成30年度 学校評価委員会総括

### 1 目標

- (1) 教育活動、学校運営について有意義な「学校評価」を実施する。
- (2) 「評価」に基づき学校運営の改善を図り、教育水準の向上に努める。
- (3) 「評価」を公表し、保護者・地域住民の理解と参画を得て、開かれた学校づくりを推進する。

### 2 取り組み

- (1) 授業アンケート  
授業をより充実したものにしていけることを目的として、全ての授業で、受講する全生徒に対して6月に実施。
- (2) 保護者アンケート  
公開授業に参加した保護者に対して、11月に実施。
- (3) 学校自己評価  
教職員自身による自己評価として、2月に実施。
- (4) 学校関係者評価  
学校評議員による学校評価として、3月の第3回学校評議員会で実施。
- (5) 学校評価の総括について  
ア (1)～(4)の評価及びアンケートの結果を総括し、本校公式HP上へ掲載し公表する。  
イ (1)～(4)の結果は各部署へフィードバックし、次年度の各校務分掌の「取り組むべき課題」に反映させ、教育活動の改善につなげる。

### 3 総括

- (1) 校内各種アンケート  
各種アンケートの結果が各教員の授業や各部署の運営に活かせるように、できるだけ早急に結果をフィードバックできるよう、集計の迅速化を図りたい。授業アンケートに関しては、データ処理にまとまった時間が必要となり夏季休暇の後半になってしまった。夏季休暇前に示すことができれば、後期補習以降の授業から授業改善に努めることができたのではないかと反省している。  
保護者アンケートについては108名から回答を得た。「本校に期待されるものは何

か」という項目では、『授業の充実と学力の保障』『進路指導と進路実績』『キャリア教育』が上位を占めており、『単位制』は昨年度に比べ 7.8 ポイント減少している。また、『部活動』『生活指導』についてはそれぞれ 3.9、9.2 ポイント増加している。『単位制』については周知されてきた結果と好意的に受け止めたい。上位を占めたものに関連する項目（「学習指導は充実しており、お子様の学力をつけている」など）においては高評価を得ている。「人を育てるという観点に立って、生活指導がしっかり行われている」という項目が 15 ポイント以上減少していることから、学習面・進路保障への期待から人間力を高める方向へとシフトしているのではないかと。

学校自己評価に関しては、「いじめ対策」の項目を新たに設けた。「問題解決型学習の展開」や「教職員の共同体制の確立」の項目が低評価であり、平成 31 年のカリキュラムから総合的な探求の時間が始まる上での大きな課題だ。

## （2）学校関係者評価

学校評議員に『学校自己評価』『授業アンケート』『保護者アンケート』及び各年次が実施する『生活実態調査』の結果、各部部長・年次主任からの報告などを参考に学校に対する評価をお願いした。学校評議員会に欠席の 2 名を除き、5 名から回答を得た。全体として良好な評価をいただき、「働き方改革が叫ばれる中、どうぞお体大切に」と職員への労いの言葉もいただいた。また、「PDCA サイクルの A から P への次年度への確実な実施が重要だ。そのためには引き継ぎを徹底してもらいたい」といった要望も示された。